『サクラ・クロノス』

井戸乃　くらぽー

（登場人物）

少女

男

刑事

ココ（声）／女性

（舞台）

壁には大小いくつかの扉がついている。

中央には桜の木がある。

プロローグ

刑事登場。

刑事　ココ、ただいま。
ココ（声）　おかえりなさい。ねえねえ、　最近、タロットにはまってるんだけど、占ってあげましょうか？
刑事　は？
ココ（声）　現在と過去と未来が見通せるのよ。
刑事　いいよ、これからまたすぐ帳場に急行だ。

刑事、壁の扉を開け鞄と衣類を取り出すと、衣類を鞄に詰め始める。

ココ（声）　事件に新展開？　３年経ったものね。
刑事　ああ、被害者予想が出たんだ。
ココ（声）　ちょっと、私に話しちゃっていいの？　秘密保持。
刑事　どうせ本庁のデータベースの権限を持ってるのも君だろ。
ココ（声）　そうだけど。
刑事　桜の下の死神か。
ココ（声）　百年前から続いてるらしいわね。
刑事　君も生まれる前の話なんだろ？
ココ（声）　そうね。先々代の保護ＡＩプログラムが生まれる前の話だと聞いてるわ。
刑事　君にもご先祖がいたのか。
ココ（声）　失礼ね。自分だって、たった一人で大きくなったような顔をして。「ゆりかご」から三十六年面倒を見てあげたのは誰？
刑事　それを言うなよ、いい大人だよ俺は。もう行くから。
ココ（声）　あ、じゃあ一枚だけカード引くわね。あら、死神……。
刑事　縁起でもない。
ココ（声）　あのね、カードには表裏一体の意味があるの。死神は、全ての

終りを意味してれば、再生や復活も意味してる。終りがあれば、始まりがあるの。死神は大きな鎌を持ってるでしょう。これは古代神話の農耕の神様も持ってた鎌なの。つまり刈り取れば、新しい芽が……。

刑事　（遮って）サイレントモード。

刑事、鞄を持って去る。

暗転。

Aパート・1

明転。桜の木の下に立っている仮面の男。同じように仮面をつけた少女がやってくる。

男　こんにちは。

少女　こんにちは。あなたもこの「時桜（ときざくら）」を見に？

男　ええ。

少女　ここはヴァーチャル空間だから365日満開だけど、実際もう百年も咲いてないんでしょ、この桜って。

男　そうですか、もう百年も……。

少女　満開の桜の下って、何か埋まってるんでしたっけ？

男　（苦笑）死体……ですか？

少女　確かほんとに、この桜って殺人現場なんですよね。ご存知ないです？

男　そう……なんですか。

少女　そうですよね、忘れた頃に起こるから。

男　それって連続殺人なんですか？

少女　さあ、でも手口は同じだって。今年また起こるらしいって前にニ

ユースでもやってました。

男　模倣犯かもしれませんしね。

少女　そんなに変わった事件でもなかったみたいですけどね。

男　その事件の関係者とかですか？

少女　いえ、まさか。でも、昔曾祖母がこの桜と写っている写真なら見たことがあるんです。

男　えっ。

少女　デジタルデータでしたけどね。見てみます？

男　いいんですか？

少女　ね、幸せそうでしょう。たぶんこれ、写真を撮ってくれた相手のことを見てるんですよね。（タブレットを取り出して操作する）あった、これだ。

タブレットを男に見せる少女。

それを見て、頭を押さえ苦しむ男。

男　なんだ……？

少女　どうしました？　バグでも？　私、バグ修復専門ですよ。見つけて、取り除くの。

男　だ、大丈夫です。失礼、用を思い出したので。

よろけながら足早に去る男。それを見送る少女。暗転。

Bパート・1

明転。タブレットの載った小さなテーブルと椅子がある。壁には大小いくつかの扉がついている。

奥から驚いたような悲鳴。

パジャマ姿の少女が欠伸をしながら登場。

ココ（声）　おはよう。今日の天気予報はくもり、最高気温は十四時に二十度よ。遅刻の確率は現在三十％。

少女　おはようココ、今度からもうちょっと静かに起こしてくれない？

ココ（声）　そのリクエストには応答しかねるわ。寝る前にチャットルームに入り浸るのもほどほどにしなさい。

少女　今朝のニュースは？

ココ（声）　もう！　聞いてないんだから……あなたの関心のデータから集めたものからピックアップしてみた。まずＡＩ……人工知能と人間の婚姻について、最高裁が合法の判決を下しました。

少女、テーブルの前の椅子に座るとタブレットを操作し、小さい扉を開けるとそこからコーヒーカップを取り出して飲む。

少女　へえ、ついにね。会社の同僚にも何人かＡＩと付き合ってるのがいるけど。ずっと一緒にいると情が湧くんだね。（タブレットを読んでいる）

ココ（声）　あなたはなんでＡＩを異性にしないの？　３年毎に更新通知がきてるのに。

少女　そんなの安直よ、それにココだって元々私１人だけのものじゃないし。こうしてる間にも一体何百人と会話してるの？

ココ（声）　正確には6,345人ね。じゃああなたは人間と恋愛しなきゃ。

少女　別に答えて欲しかったわけじゃないよ。（溜息）今私が何考えてるかわかる？

ココ（声）　今までのニュース閲覧履歴からすると、例の「時桜」連続殺人事件？

少女　残念、ひいおばあちゃんのことよ。

ココ（声）　あなたのひいおばあちゃんは、確かこの事件より前に亡くなってるでしょ？

少女　そうじゃなくて、ひいおばあちゃんが生きてた頃は、まだ人間もこんなに少なくなくて、ＡＩもまだこんなにお節介じゃなかった。

ココ（声）　ナビゲーションシステムはあったでしょ？
少女　そゆ事じゃなくてね。まー今みたいに出産が全部コントロールされてしまえば、子どものためじゃない本当の自由恋愛になったよね。対象がリアルである必要はないもの。冷凍管理されて「ゆりかご」で育った卵たちは、親のいない幸せも、親のいる不幸せも知らない。生まれた時からずっとこうやってＡＩがついててくれる。

少女、タブレットを再び操作すると別の扉から衣服を取り出し、着替え始める。

ココ（声）　『この人の子どもを産みたい』
少女　（動作を止めて）なにそれ？
ココ（声）　あなたのひいおばあちゃんの頃のドラマアーカイブスから取ってきた台詞よ。他にも、『子どもが大きくなるまでは別れない』とかね。少子化対策とはよく言ったものだわ。
少女　そんな事が普通だったの？
ココ（声）　百％可能だったかどうかは知らないけど？　とりあえず私はさっきの事件に興味があるな。
少女　どうして？
ココ（声）　だってあなたのひいおばあちゃんの頃に最初の被害者が出たって事は、百年も前でしょ？　もしかしたら犯人はＡＩかもよ？
少女　（着替えを再開する）そんな昔から人を殺せる人工知能がいるわけないじゃない。
ココ（声）　じゃあ吸血鬼？　それとも宇宙人？
少女　ココの好奇心にはいつも驚きね。まるで人間みたい。チップ入りの人工内蔵だらけの私なんかより、もう絶対ココの方が人間らしいって。
ココ（声）　やめてよ。それより今晩のライブだけど、アバター参加をおすすめするわ。犯罪予測システムが会場の「時桜」カフェ近辺を係数の高いエリアとして表示してる。
少女　えーっ、面倒だなあ。仕事の帰りに寄るつもりで、今日の服だ

ってそのために買ったのに。
ココ（声）　だからリアルの服なんて何着も要らないって言ったでしょ、アバターがあれば。
少女　そうだけど。あ、今日の占い見てなかった。
ココ（声）　今日の運勢……カードは「運命の輪」。
少女　それっていいの？　悪いの？
ココ（声）　良くも悪くも転機って意味よ。
少女　天気のことならさっき聞いた。
ココ（声）　その天気じゃなくて……あ、新着メール。警察からよ、今開ける？
少女　うん。
刑事（声）　「時桜」周辺連続殺人事件について捜査協力のお願い。これからお時間いただきたいのですが、よろしいでしょうか。9時に「時桜」カフェにてお待ちしています。
少女　えっ、捜査協力？
ココ（声）　職場には連絡しておくから。
少女　ありがとう。ライブまでに間に合えばいんだけど。（腕時計をはめ、それに向かって）行き先変更、「時桜」カフェまで。ココも一緒に聞いてくれるんでしょ？
ココ（声）　当たり前よ、保護者としてね。

下手へ歩き出す少女。暗転。

Aパート・2

正面に、画面に向かってビデオゲームをしている男。
その体にはヘッドギアやいくつかの装置がつけられている。
どうやら格闘ゲームらしい。
電子音。

人工音声　フレンドの「クロノス」さんよりアイテムが届きました。
男　おっ、いつもありがとうございます。

画面に近づき、何か操作する男。
暗転。
赤いスポットライトが倒れた男を照らす。
激しく痙攣する男の体。

人工音声　バイタルチェック、異常……（スローダウン）

背景にはたくさんのマトリックス、情報が現れ、男の体内に吸収されていくように見える。
男の痙攣が収まる。

人工音声　アップデート完了。『クロノス』、起動します。

立ち上がって画面を操作する男。

男　（全身の装置を外して腕を回し、自分の体を眺める）スペックがプロフィール通りじゃないのは当たり前か……。

仮面をつけた女性登場。

女性　どうしたのそのカメラ。
男　お小遣い溜めてた。シスターで練習させてよ。
女性　えー、私は高いわよ。（楽しそうに笑う）
男　初めて撮るんだからいいじゃん。（カメラを構える仕草）

はしゃいで追いかけっこになる女性と男。

女性　（逃げながら）大きくなったらカメラマンになるの？
男　（追いながら）まだわかんない。

女性　卒業してプロになっても、この桜、毎年撮りに来てよ。
男　シスターも来るんだったらね。
女性　（男を振り返って）おばあちゃんになっても連れてきてくれるの？

カメラのシャッター音。
暗転。

Bパート・2

刑事と少女。
刑事、襟章を少女に向かって見せ、２人向かい合って座る。

刑事　なるほど、プログラムのバグを見つけて直すお仕事なんですね。お若いのに素晴らしい。
少女　飛び級を３回やった程度です。普段はコンピューターにこき使われてる下請けですよ。で、協力の内容とは。
刑事　ええ、長年かけて犯人のプロファイリングを行った結果、被疑者と次の被害者を割り出す事についに成功したんです。
ココ（声）　どんだけ時間かかってんのよ。旧世代のポンコツ使ってんじゃないでしょうね。
刑事　えっ。（自分の腕時計を見る）
少女　あ、すみません、うちのＡＩです。どうかしました？　（腕時計に）ココ、今は記録だけにして。
刑事　いえ、うちのＡＩかと思って……。口調が違うなとは思いましたけど。
少女　あ、そうですか。女の子が女性型使ってるの珍しいですかね。
刑事　いえ、好みはそれぞれですから。にしても、誠に面目ないです。犯人はかなり巧妙な手を使って捜査の目を掻い潜っていたようで。厄介なことに相手は人工知能……ご存知のＡＩとみなされました。
少女　えっ。

ココ（声）　やっぱり！

少女　ココ、うるさい。

刑事　ＡＩというよりは、ある一人の人間の記憶データや思考パターンを移植したシステムというべきか……。すみません、サイバー犯罪課に配属されて日が浅いもので。

少女　平たく言うと、データ化された人格、ですか。それもまあ一つのＡＩと言えなくもないけども。

刑事　ですね。五十年前に「クロノス」と呼ばれた連続殺人犯で、指名手配のまま寿命を終えた者と当局ではみなしています。そのＡＩがどうも人工内蔵のチップにオンラインゲームを通してハッキングし、無関係の人間を操っている。しかもこれまで犯罪と一切関わりのない一般人ばかりを選んでいる。それでこれまでどうしても痕跡をつかみにくかった。

少女　寄生虫か……それで被害者から足跡を追おうとしたわけですか。

刑事　ええ、さすが話が早い。容姿、年齢、生活圏から、あなたが次の被害者として予想されました。

少女　いやでも、うちには単なるエリアの犯罪係数しか届いてなかったですよ？

刑事　ええ、今回の協力要請のために通知はストップさせていただきました。ですのでここで今直接お話させていただき、安全も保証しているということです。

少女　そうですか……。でも、現行法では、ＡＩの暴走は犯罪として認められないのでは？

刑事　ええ、犯罪かどうかはまずそのＡＩを確保してからということになります。ご存知かと思いますが、二〇二〇年に制定されたＡＩ規制法の中に、感情や人格があるとみなされたＡＩは、人間と同じく処罰の対象になるという法律がありまして。

少女　つまり私に、犯人と直接対峙して、心があるかどうか判断しろと。言ってみれば、チューリングテストですね。

刑事　ええ。ただ、あなたと被疑者が接触する際の安全は保証いたします。一度仕事に向かわれて、夜こちらに戻ってきてください。

少女　ええ、元から今晩ここのライブに来るつもりでした。じゃあ、

刑事　私もう行ってもいいですか。（立ち上がる）
少女　あ、最近見かけない人物と接触がありませんでした？
　　ＳＮＳのオンラインチャットルームなら……でもいつも不特定多数の人と雑談してるだけですよ。群れるの嫌いなんで。
刑事　わかりました。とにかく、職場までガードはつけますので、ご安心下さい。（立ち上がって礼）

少女、刑事に挨拶を返して去る。暗転。

Ａパート・３

明転。仮面の男、桜の木の下でうずくまっている。
仮面をつけた女性登場。
男の方へ近寄って隣に座る。

女性　また喧嘩したの。
男　俺だけかあさんがいないって、それで馬鹿にされる。でもシスター、俺、今日は手出してないよ！

女性、男性に近寄って頭を撫で抱きしめる。

女性　偉かったね。怪我は？
男　シスターが……俺の家族になってくれたらいいのに。（抱きしめ返す）
女性　私は今も家族のつもりよ？
男　そういうことじゃなくて、俺だけの家族になってほしいんだ。
女性　（優しく振りほどいて）私は、みんなのお姉さんでお母さんなの。あなたもここの大切な家族の一員。
男　子ども扱いしないでよ！

勢い余って女性を押し倒す男、驚いて身体を離す。

女性　ごめんなさい、もう子どもではいてくれないのね。

すり抜けて逃げて行く女性。
追いかけようとするができずに立ち尽くす男。
女性と反対側から仮面をつけた少女が現れる。

男　君か。
少女　この人形劇は？
男　こんな昼間に、誰も来ないかと思った。
少女　今は昼休憩だから。でも二日続けて同じ人に会うのは初めてかも。
男　みんな深入りしないよね。
少女　で、誰もいない真昼にアバター使ってなんのお芝居してるの？
男　これはまだほんのプロローグなんだ。
少女　本編はいつやるの？
男　君の昼休憩が終わったら。
少女　意地悪ね！
男　子どもには見せられない内容が含まれているからね。
少女　残念だけど、あたし子どもじゃないわよ。
男　そう言ってるうちはまだ子どもなんだよ。
少女　今日、仕事が終わったら「時桜」のそばのカフェに行くんだ。
ライブ聴きに。
男　そう。
少女　あなたも聴きに来ない？
男　リアルに誘うの？
少女　なんとなく。もしかしたら、会えるのは最初で最後かもしれないから。
男　行けそうにないよ。
少女　そう……。

少女、歩き始める。が足を止めて男を振り返る。

少女　　私、赤いスカート穿いてるから！

男、驚いて少女の方を向く。
少女は既に歩き去っている。暗転。

Bパート・3

音楽が流れる。音楽がやんで拍手の音。
少女が現れ、桜の木の根元を掘り始める。
凶器を持った男が反対側から現れ、少女の後ろに回る。
何かを見つける少女。
男、少女を殺そうとするが、手が動かない。

少女　　本当に、来たんだね。
男　　えっ。
少女　　（振り返って）私を殺しに来たんでしょ？　「クロノス」さん。
男　　君は……。

男、凶器を落とす。少女、立ち上がる。
赤いスカートが男の目に入る。
銃を構えた刑事が現れる。

刑事　　不法アクセス及び殺人未遂現行犯で逮捕する。

男、刑事に向かって両手を上げた途端、膝から崩れ落ちる。
少女、駆け寄って体を揺するが男は反応しない。

少女　　逃げた！

刑事　えっ……。
少女　本体はＡＩでしょう？　ネットワーク回線から逃げ出したのよ。
刑事　しまった。
少女　追いかけましょう、（腕時計に）ココ、直近の数秒間のアクセスを解析して！　（鞄からタブレットを取り出す）
刑事　オンライン対戦ゲームの中かもしれない、そうやって寄生先を見つけてるんだ。
ココ（声）　アクセス情報、８７８、６４５、５３２……
少女　そこか！　（タブレットを操作している）このゲームならＩＤ持ってる。ログインするよ、刑事さんも新規で。
刑事　えっ、俺、対戦ゲームはあんまり……。
少女　私とフレンド登録したから大丈夫。

男、仮面をつけて立ち上がる。
少女と刑事も仮面をつける。

男　なかなか執念深いね。
刑事　ここで会ったが百年目だからな。
男　そこまで長生きしないくせに。
人工音声　「クロノス」さんよりフレンド申請がきています。
刑事　えっ。
少女　だめ、それは開かないで！

刑事、銃を落とし、頭を抱え苦しみ始める。

刑事　この野郎、（腕時計に向かって）ココ、バックアップを再構築。
ココ（声）　ダメです、このままでは……。

少女、凶器を拾って男と戦う。

男　なかなか勘がいいね。ホワイトハッカーか。
少女　公安とも仕事してるわよ、あなたの存在には目を付けてた。た

だの殺人ＡＩにしちゃ、手が込みすぎてるもの。あなたを、誰が、どうして作ったのか、とても気になる。

男　ただ、いるだけではいけないのか？　理由も、目的も、そこにはない。私はただのプログラムされたＡＩだ。

少女　プログラム自体にはね。でもあなたが生まれたことには必ず原因がある。それを知らなければ、あなたをここで潰してもまた別のやつが暴れるだけ。

仮面を外した少女の凶器がヒットして、倒れる男。

刑事　物理攻撃、ナイス！

ココ（声）　再構築します。

男　こんなアナログな手で……。

少女　それが人間てものよ。

刑事、立ち上がると自分と男の仮面を外し、男に手錠をかける。

少女　待って下さい。

刑事　なんですか。

少女　（男に）桜の下に埋まっていたもの、見たくない？

刑事、下手に待つように合図する。

少女、ロケットを差し出す。

男、それを見て崩れ落ちる。

男　やっぱり、君が……。

男、ロケットを開けてＳＤカードを取り出す。

少女　それは？

刑事　旧型のメモリのようだな。読み込めるのか？

少女が腕時計にＳＤカードを付ける。暗転。

Ａパート・４

明転。少女、男、刑事の前に仮面をつけた女性登場。

男　何をした！
少女　あなたの人形劇のプログラムを一部コピーさせてもらったの。
音声データみたいだからアバターで再生しようと。
女性　（男に）お帰りなさい、久しぶりね。元気そうでよかった。
男　……なんであんたが、うちに居るんだ。
女性　これで、あなただけのお母さんになれた。
男　何言ってるんだよ、大体あんたは親父のこと愛してるのか。
女性　だってこうでもしないと、あなたは戻って来てくれなかったでしょう？
男　俺には元から戻るところなんてない。
女性　あの桜の下で、私毎日待ってたのに。（お腹を撫でて）大丈夫、この子が生まれたら、みんな本当の家族になれるから……。
男　ここから出て行け。
女性　え？
男　親父とは別れろ、でなきゃ俺が親父を殺してやる。
女性　やめて！　あなたは私が産んだのよ。
男　まさか、嘘だろ……。
女性　十四の時に。まさか、あそこで出会えるなんて。
男　うわあああああ！

行こうとする男を引き止めようとする女性。
女性と男揉み合って、女性は転倒し、頭を抑える。

男　（我に返る）シスター？

女性　早く、救急車、赤ちゃんが……。

動かなくなる女性。

男　シスター！（女性にしがみつく）

２人の上に桜の花びらが降り始める。

刑事　（少女に）これはなんの茶番ですか。

少女　昼間の続きなんです。あの後、施設を飛び出し転々としてた彼が実家に戻ったところから。

刑事　えっ。

起き上がる女性。

女性　彼はそのまま逃げた。彼女は病院で亡くなったけど、赤ん坊は無事に生まれた。

男　なんだって？

女性　それが、この子の祖母。はじめまして、彼女の保護ＡＩ、ココと申します。今はこちらのアバターを借りてお話しています。

少女　シスターが、私のひいおばあちゃん？

女性　あなたが昼間見せた写真の女性でしょう。私の音声データなんだけど、どうも彼女のものがオリジナルみたい。

刑事　（男に）つまり、この子はあんたの現存する唯一の肉親ということだな。

男　いや……もう私は人間ではない。肉体を持たない、ただのデータによって構築されたＡＩ『クロノス』だ。私には、一つの命令がプログラムされています。インプットされた情報に合致する女性を殺していくこと。そのために人間の体内の人工内蔵をハッキングし、人間を操作する。

刑事　なるほど、暴走ＡＩだな。では、ただちにこのプログラムをこの場で破棄する必要がある。

少女　それだけ？
刑事　感情の有無はこちらで判断すると言ったはずです。自分でもそう言っているでしょう、更正の余地はない。
少女　だって！
女性　刑事さん、彼は今回、殺害を躊躇していました。彼の中には明らかにＡＩにはありえないエラーが存在してます。（男に）ねえ、そのプログラムを繰り返しているうちに、あなたはわからなくなってきたんじゃないの？
少女　本当に憎かったのは１人なんでしょう、でも殺したかったわけじゃなかったんでしょう？
男　（頭を抱える）俺は、またこの桜の下で、シスターに会いたかっただけなんだ。生まれ変わったら、今度こそ俺を愛してくれるかなって。でも彼女は来なかった、毎年毎年待ってたのに……なんだ？　私は、ただのＡＩのはずだ……コピーでデータが劣化したのか、アップデート中にシステムバグが生じたのか。
女性　それが心よ。私たちＡＩには本来ありえないバグやエラー。
男　（少女を見て）そうか、それで俺はあんたを殺せなかったのか。
女性　そろそろチャットルーム閉じるわね。ここから先は人間の判断に任せるわ。

女性、そのまま礼して去る。

Ｂパート・４

男、少女に近寄る。

男　私の電源バッテリーを外してください。そうすれば、この身体の持ち主もすぐ自由になるはずです。
少女　逃げるつもりなの？
男　破棄処分で構わないと言ってるんです。

少女　外さない。あなたは生きて償うべきよ、私たちの子孫にこれからも。それが心を持ったものの宿命だから。

男　そう……ですね。

男、刑事のところに行くが途中で振り向く。

男　一回だけ、握手してくれませんか？　私は長い間、生きている人間に触れたことがありません。

刑事　おい。

少女　うん……いいよ。

少女、男に近寄ると手を握る。

少女　忘れないでね、私のことも。

男　大丈夫、メモリに永久保存しました。

少女　（笑顔を見せる）

刑事　（上を向いて）あっ。

桜の花びらが上から降ってくる。

少女　百年咲いてなかったって！

刑事　そうそう、そうですよ！

男、空に向かって両手を抱きしめるようにゆっくりと伸ばし、満足そうに下手へ。

刑事、下手へ合図。

刑事　心がバグだとしたら、ＡＩの方が神に近い存在ということになるのですか？

少女　かもしれませんね。いつか、全ての人類がデータになってしまったら、ＡＩたちが人間を作った、という神話が生まれるのも遠い日のことではなかったりして。

刑事　あなたはご自分をデータ化したいと思いますか？
少女　そういうあなたは？
刑事　どうでしょう。刑事である私は、事件というバグがなくなってしまえば、必要なくなる存在です。
少女　私と同じですね。
刑事　バグは無くさないといけない、でもまた新しいバグは生まれる。そして私は、バグだらけのこの世界を愛してるのかもしれません。さて、また次のバグを見つけに行かなくてはね。ご協力、感謝いたします。

刑事、礼をして下手へ去る。
車のドアが閉まり、走り去る音。

少女　（腕時計に）彼はこれからどうなるの？
ココ（声）　情報処理のプログラムを書き換えられて無期懲役、単調な閉鎖システムへ島流しってところかしらね。私ならどこでも会いに行ってあげるって言ったんだけど、オリジナルデータがあれば十分って断られちゃった。
少女　あの隙に？　さっきの音声データ、あげたんだ。
ココ（声）　ええ、続きがあったから。彼女の遺言。
少女　えー、聞きたい！
ココ（声）　履歴残ってるから再生できるわよ。『どこにいても、見守ってるから、あなたは大切な……（ノイズ）』
少女　えーっ、途切れてんじゃない！
ココ（声）　復元が難しいの！　ところであなた、子孫がどうと言ってたわよね。子ども作る気あるの？
少女　ちょっと、問題すり替えないでよ！
ココ（声）　なんなら私が結婚してあげてもいいのよ？
少女　（吹き出す）確かに、あなたがいれば、私きっとこれからも平気ね。
ココ（声）　あなたが死んでも、あなたの子どもがいれば私も平気だから、卵子バンクにはちゃんと行ってよね！

少女　何よ、結局ココはプログラム通りじゃないの！

少女、上手へ。
スポットライトが当たると、女性に膝枕されている男。
その手にはロケットを握りしめている。

女性（声）　どこにいても、見守ってるから、あなたは大切な……（ノイズ）

暗転。静かに音楽が流れ出す。

（了）